緑の風 FAX版

NO. 12
2014年10月16日
ＪＲ東労組
本部情宣部

自らの足で現場を回り感じたこと、
現場で奮闘する「組合員の声」をもとに

たしろかおる参議院議員
国土交通委員会で質問！

10 月 16 日、たしろかおる参議院委員は参議院国土交通委員会において質問に立ちました。
今回は太田国土交通大臣の所信に対する質問を行い、鉄道事業における外注化問題、鉄道係員への暴力根絶に向けた取り組みなどについて政府の見解を求めました。
他にもＪＲ北海道の現状や、航空・船舶・タクシー業界の抱える問題など交通政策の幅広い分野について質問しています。
国政で活躍するたしろ参議院議員の活動を職場から支え、２０１４秋のたたかい「たしろかおる紹介者カード」の取り組みを全組合員でやり抜こう！

鉄道係員への暴力根絶に向けて

（たしろ参議院議員）
利用者に対して鉄道係員への暴力は鉄道の安全性や定時制が低下することをもっと認識してもらうべきである。社会に向けて情報発信する協議会などを設置すべきだ。

（答弁）
国土交通省として暴力行為の実態把握と利用者への周知は重要だと認識している。昨年から暴力行為の実態調査を行い、民鉄協とも連携しながらポスターなどを通じて利用者に周知を行っている。今冬にも調査結果を公表し年末にもキャンペーンを行うが、引き続きポスターなどを使った啓発の他に周知内容を工夫して暴力の撲滅を図っていく考えだ。

鉄道事業における外注化の問題について

（たしろ参議院議員）
保線や車両メンテナンス部門の外注化が進められているが、利益を優先する新自由主義的経営によって「現場力」が弱まっていると感じる。技術立国・人材立国である日本が外注化によって優秀な技術や人材が分断・分散してしまうことによってさらに現場力が低下すると考えるが大臣の見解を伺いたい。

（太田国土交通大臣答弁）
企業における限りある人材と予算の中で外注化が増えていることは認識している。しかし外注化を活用する場合、適切な管理・監督ができるか、安全上の問題が生じるか生じないかという視点が重要だ。本社直轄で維持しなければ監督できない業務もあると思うが、外注化と直轄を組み合わせて、現場の隅々まで本社の目が届く体制の構築や、本社内に技術が蓄積されていることが重要だ。

災害時の鉄道輸送について

（たしろ参議院議員）
台風 18 号によって東海道線が寸断され、貨物輸送に影響が出ている。日本の鉄道輸送の大動脈が災害によって寸断されれば人や物流に与える影響は大きいため、災害発生時の迂回ルートを充実させることは重要ではないか。

（答弁）
東日本大震災時の燃料輸送が可能になったのは、迂回ルートがあったからだ。大動脈が不通になった時の迂回ルートは多重にすることが重要であると考えている。

質問の様子は「参議院インターネット中継」で見ることができます！